

パートナーシップNEWS



第41号 平成20年10月 発行:市民協働推進課



**次世代を担う職員が
自治会活動を体験取材！！**

**=地域の实情に即した政策形成のために=
「地域政策形成能力開発研修」を開催！！**

「職員は自治会など地域活動の实情を知っているだろうか・・・」

地域住民の声を反映するとともに、地域における現状や課題を踏まえたまちづくりを進めるためには、実際に地域に出て、地域住民の取り組みや活動を知ることが必要になります。しかし、現在の市職員の職務としては、なかなか地域の現場に出て行く機会を持っていないのが実情です。

そのような状況に対応するため、市の次世代を担う若手職員が地域における公共的な活動の中心的な団体である自治会活動を体験取材し、地域における現状や課題を肌で感じ、明日の相模原を考える研修

体験させていただいた自治会の多様な活動



体験取材の報告会で一般職員にも周知！



**「市職員としても、一市民としても、
地域を知ることは大事だと気づきました。」**

若手職員が体験取材した成果は、10月16日に開催した一般職員向けの報告会において発表されました。午前中は、23事例の報告を行うとともに、午後は、「相模原市における地域力の現状と今後の展望」という座談会を開催し、自治会からは追切さんと小淵さん、地域力を研究している大学院生の銭谷さん、本市の山口副市長に加え、立教大学中村教授をコメンテーターとしてお迎えし、相模原の地域力の課題やそれに対応する方策について、会場の職員とともに考えました。

報告会に参加した職員からは、「自分も含め、地元での自治会活動へ積極的に参加しなくてはと思った。」「大変刺激を受ける発表ばかりでした。今後事務を進める中で実践にかなげられるよう意識が高まりました。」「私自身自治会とは何なのか、何のためにあるのか理解する良い機会となった。」といった声が数多く寄せられ、相模原市の「地域力」を考える有意義な機会となりました。